

## 第17回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

### <フリートーク型>

#### 対話録概要

と き	令和7年9月13日（土） 午前9時30分から午前11時30分まで
と ころ	立花南生涯学習プラザ 1階フリースペース
出 席 者	参加者 11人、市長ほか関係者 7人 計18人
トークテーマ	① 高齢者施策について ② 尼崎をもっと良くするために ③ フリートーク

#### 【市長のあいさつ】

自分自身が市長になって17回目の車座集会である。平日の昼間では参加できない人にも参加してもらう狙いで、今年度は平日の夜や休日にも開催している。本日はフリー形式での開催のため、活発な意見交換ができればと思っている。

#### 【意見交換】

##### テーマ① 高齢者施策について

<参加者>国は、高齢者の入院や介護施設への入所、そして葬儀・死後事務手続を含む終身サポートを総合的に提供する仕組み作りを検討している。厚生労働省が「高齢者等終身サポート事業者ガイドライン」を発行しているものの、事業自体は許認可業務ではなく監督官庁がないため、いろいろな事業者が参入でき、サービス内容や料金体系が様々な現状にある。そこで、尼崎市が独自で高齢者等終身サポート事業を構築することで、利用者保護、事業の継続性・透明性の観点から、市民の安心感が得られ、また、既に尼崎市が実施している高齢者施策（フレイル予防や高齢者生きがい就労事業、空き家に対する支援等）と組み合わせることで、幅広い支援につながると考える。

<市長>尼崎市では単身の高齢者世帯の割合が相対的に高いが、葬儀や死後事務手続を含む終身サポートに関する事業は実施できておらず今後に向けて検討していきたい。

<参加者>令和9年度は介護保険法改正と介護報酬改定が予定されている。自分は訪問介護事業をしているが、要介護度が要支援（日常生活の一部に見守りや何らかの介助が必要であるが、介護予防サービスの利用によって生活機能の維持・改善が期待できる状態）の高齢者が多いと感じている。要支援では利用できる介護サービスが限られているため、介護保険外の自費でサービス提供を受けているケースもあるものの、多様なサービスを通して人との関わりやつながりができ、ADL（Activities of Daily Living（日常生活動作））やQOL（Quality of Life（生活の質））が上がり、長生きにつながると考えている。

<市長>国は介護保険法等の改正により、超高齢社会の進展に伴う介護ニーズの多様化と、公的保険財政のひっ迫という背景から、保険外サービスの活用を促す方向で議論が進んでいる。自分としては、健康寿命が延びている今、65～80歳の高齢者が社会貢献として就労できる機会を作っていかなければならないと考えている。高齢者バス運賃の助成についても、経済的負担の軽減だけを目的とするのではなく、高齢者が外に出る機会を保障し、地域のコミュニティが生まれることを応援しているもので

ある。高齢者施策の新しい展開として、介護保険法等の改正に合わせて考えていきたい。

〈参加者〉健康づくり推進員として健康サポーターをしており、噛むカム倶楽部に在籍している。歯の健康やよく噛むことの大切さについて情報発信しながら、口の体操を広める活動を行っている。口腔ケアをしておかなければ、高齢になった際に食べることへの楽しみがなくなったり、栄養補給ができなくなり身体能力が低下するといったことが起きてくるため、健康寿命が延びている今、口腔ケアは重要である。

〈市長〉8020運動（80歳になっても20本以上自分の歯を保とう）等、健康維持のために口腔ケアは重要であるため周知に努めたい。

〈参加者〉社会福祉協議会への加入率が低いことが課題であると感じている。加入していれば回覧板を回す際に地域の情報が入ってくるが、加入していなければ回覧板もなく地域の様子が見えてこない。独居の高齢者が今後も増えていくことが想定される中で、地域のつながりをどのようにしていくべきか悩んでいる。

〈参加者〉自治会や町会に加入する人は限られており、孤立する傾向にあるため、何か手立てを打たなければならないが、なかなか加入人数は増えず、地域で対策するには限界がある。

〈市長〉社会福祉協議会への加入率が低下し、見守り等の代替として民間サービスが生まれるかもしれないが、サービスを利用するにあたっては家庭の負担が増えていく。地域のつながりをどのように作っていくか考えることを諦めてはならず、効果的な対策を模索していきたい。ただ、新しい事業を展開したとしても、加入や参加を義務付けることはできないため、難しく苦勞する部分である。

〈参加者〉今の話を受け、若い世代は町会に加入するメリットがないと感じており、加入しない人や退会していく人が多い。ボトムアップとして地域で取組には限界があるため、トップダウンとして市の施策をしてほしい。

〈参加者〉生涯学習プラザで実施している防災に関する講座は、高齢者も積極的に参加している印象を受ける。単に自治会の加入人数を増やすことを目的とするのではなく、地域に共通するテーマに絞って集まりを持つことで加入人数を増やせると考える。

〈参加者〉防災に関して、常日頃から地域の見守りやつながりがなければ南海トラフ地震などによる大災害が発生した際に対応できない。

〈市長〉自治会は普段メリットがないように感じるかもしれないが、緊急時等には非常に重要な役割を担っているため、転入者に知ってもらうような広報も必要である。

〈参加者〉地域で防災訓練をしたが、設備面の準備が上手くいかず、手間取ることがあった。

〈市長〉地域課は、地域の活動をサポートする役割があるため、職員を巻き込んで地域のつながりを作っていくしてほしい。地域での活動は日々の活動の積み重ねであり、決まったやり方があるわけではないため、毎年少しずつ改善していく気持ちで取り組んでもらいたい。

〈参加者〉定年退職を迎えたあと、女性はママ友等の地域のコミュニティがあるため孤立することはないと思うが、男性は会社や組織というコミュニティが無くなると、孤立しがちになる。企業が定年退職前にセミナー等を取り入れ、この先の自分が活躍する場所をイメージできれば、生き生きと過ごすことができるのではないかと。

〈参加者〉多くの人にとって、そのような活躍できる場に関する情報を得るためのツールは市報であると思う。自分も様々なイベントに参加するが男性の参加者は極めて少ないと感じる。情報源が市報と生涯学習プラザに置かれている冊子からであり、女性はコミュニティで交流する中で情報を得ているが、男性はそもそもコミュニティの交流がなく情報を得られにくいように感じるため、広報を考える必要がある。

〈市長〉コミュニティの場を増やすために、市が空き家を活用するなど橋渡しの役割ができればどうかと考える。また広報については市報において、ターゲットを絞って情報発信することや注目される構成等工夫をしていきたい。

〈参加者〉市報は毎月、決まったレイアウトの中で市政情報を発信しているかと思うが、ページよっては字が細かいため、気に掛けている人にしか情報が届かず、それ以外の人の目には届かない。市の公式LINEを上手く活用し、市が思うターゲットに読んでもらえるよう特集のような掲載方法をしてはどうか。LINEであれば移動中の隙間時間に見ることができる。

## テーマ② 尼崎をもっと良くするために

〈参加者〉大庄地区では地域共生拠点として大庄元気むらがあり、月1回会議等が開催されているが、他の地域でも同じようなものが開催されているのか。

〈市長〉市内6地区に生涯学習プラザがあり同じようなコンセプトで地域の特徴に応じて実施している。

〈参加者〉廃食用油を飛行機の燃料にする技術があるが、尼崎市を良くするために取り組んではどうか。

〈市長〉市内にある会社と連携して、廃食用油のリサイクル方法があるかどうか考えていく。

〈参加者〉中学校においては、地域によっていじめの内容に差があると聞いており、多様化するいじめの内容に合わせた対応が困難であることが想定されるため学校の先生は大変であると思う。併せて、時代も変化し、先生へ求められるものや負担が大きくなっている。

〈参加者〉今の公立中学校の制服について、デザインは現代風であるが、生地が薄く、今の時代にそぐわないものもある。そこで、真冬に制服の上に着られるPコートを公立中学校共通制服として男女兼用フリーサイズで作ってはどうか。

〈市長〉制服は歴史上、生徒の連帯感を育むことや生徒指導上の目的で作られてきたという背景がある。制服の課題のひとつに価格が非常に高いことが挙げられる。過去は生徒指導のために制服のデザインを学校毎に変えてきたが、時代も変わり、その必要性もなくなっている。制服の価格を抑えるためには、布地を共通調達し市内共通の制服を作ることが考えられ、従来の考え方に捉われ続けるのではなく、共通の制服と学校独自の制服を選べるようにするなど今日的な視点で生徒やその家庭にとって理解しやすい運用へと改善していきたいと考えている。

〈参加者〉市内の自転車道未整備の地域にはガードポール等を置いたり、自転車と歩行者のエリアを色分けしたりできないか。自転車道エリアを水色で示しているが、車道に引けない部分は歩道の中で色分けすることで衝突防止や抑止力になるのではないか。

〈市長〉自転車道の整備や色分け等については様々な条件がある中ではあるが、他市等の例も参考にしながら整備を進めている。

〈参加者〉立花商店街は、商店街内での自転車の通行について、自転車は押して通行するよう看板等で掲示されているが、守られていない。

〈市長〉別の商店街では駐輪場スペースを確保したりキャンペーンを実施したりしているため、尼崎商

店連盟と相談する。

〈参加者〉芦原公園市民プールの再整備等の進捗状況について教えてほしい。プールを作るのであれば、屋内型とし、近隣の小中学校が年間を通じてプールの授業をできるようにしてはどうか。館内に官民共同施設ができれば、スイミングスクールや企業と連携したプールができたりして理想的である。以前は額田公園等市内に数か所プールがあったが、今は集約され北雁替公園市民プールと芦原公園市民プールのみのため少ないと感じる。

〈市長〉芦原公園市民プールについては、今年度末を目途に方針を出せるよう事務を進めているため、もう少し待ってほしい。

### テーマ③ フリートーク

〈参加者〉中学校部活動地域展開について、今までは、授業に付いていくことが難しい児童も、部活動の時間を楽しみにしていたり大会で活躍したりして、周りから認めてもらう機会があった。今後、学校ではないところでクラブ活動をするとなると友達はできるのか、また、一旦自宅に帰って地域クラブへ行くことへの安全面は大丈夫なのか等心配である。地域クラブの指導者については、民間委託で指導者が見つからない場合、先生が指導者をする事になり、先生の負担軽減につながらず本末転倒になるではないか。

〈市長〉中学校部活動地域展開とは、地域で部活動を受け入れる動きのことであり、スポーツ庁及び文化庁の旗振りのもと、尼崎市では令和9年度末で全ての部活動を地域クラブ活動に移行するよう取組を進めている。自分としては、戦後最大の公教育の改革であると認識している。尼崎市はスポーツ振興事業団が窓口となり、指導者の登録等地域での指導体制を整えている。また、地域クラブには直営地域クラブと認定地域クラブがあり、公的な要素が強い直営地域クラブについては公費による支援も行いながら運営していく。地域クラブのメリットとしては、生涯学習プラザなど学校施設以外でもクラブ活動ができることもあり、市民が指導者になることで新しい種類のクラブ活動が生まれる可能性がある。メリットだけでなく、検討事項も多いため、解決に向けて進めていきたい。

〈参加者〉単身世帯が結婚した後も引き続き市内に住み続けてもらえるよう、市民が結婚した際に受けられる補助として、2年間の住宅補助等の事業をしてはどうか。もしくは結婚記念日等に飲食店のペア券等を提供してはどうか。子育て世帯を応援する前に、結婚した二人のために尼崎市で暮らすメリットを感じられるような支援をお願いしたい。そうすることで、市民が尼崎の良さを実感し、自然と尼崎で子育てしたいという気持ちになるものと考えている。

〈市長〉若年夫婦世帯及び子育て世帯が兵庫県外から尼崎市内へ新たに入居する場合について民間賃貸住宅住替え補助として実施しているが、出逢いやファミリーになる前の分野については取り組めていない。

### 【おわりに】

〈市長〉たくさん意見の意見を聞くことができ、非常に有益であった。今後の政策にどのように生かせるか担当者と議論を進めていきたい。ありがとうございました。

以上